

福島原発近くの双葉断層

東北大、地震の可能性指摘

東北大の趙大鵬教授らは、東京電力福島第一原発、第二原発の近くを通る「双葉断層」で地震が起きる可能性があるとする論文を欧専門誌に発表した。地下数キロの深い地下を調べたところ、地震をこしやすい水を含むと推定される構造が見つかったとしている。

趙教授らは、地震波が進む速度の変化から深い地下の構造を推定している。

福島県付近の調査で、双葉断層の地下に、東日本大震災の1カ月後にマグニチュード（M）7の地震が起きた井戸断層の地下深くに似た構造を見つけ。趙教授は「（双葉断層で）いつ地震起こるのかはわからないが、油断はできない」と話す。

政府の地震調査委員会は昨年、東日本震災後、双葉断層の地震の発生確率がまる可能性があるとして指摘している。

（瀬川茂子）